



【読書】キャラクター「おっほん」

札幌市立東札幌学校

読書活動の取組

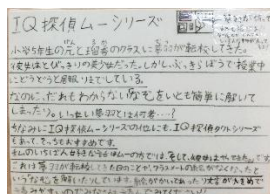
読書センターとしての機能

【本の購入リクエストの実施】

自分がリクエストした本が実際に棚に並ぶことで、図書館への親しみや読書へのモチベーションが高まります。また司書だけの視点ではカバーしきれない、子どもたちのトレンドや興味・関心を蔵書に反映させることができます。

【「おすすめ本」のポップ掲示】

児童が作成した「おすすめポップ」などを館内に展示しています。



【読書郵便の実施】

友達に向けて「この本がおもしろかったよ」とはがきを書き、館内のポストに投函すると、相手に届くシステムです。子ども同士での貸出が連動します。

学習センターとしての機能

【低書高化による「見通しの良い空間」】

子どもの目線に合わせて本棚の高さを低く変更。館内全体が見渡せることで開放感と、探したい本への直感性を向上しています。

【「国語教科書に出てくる作家」の常設展示】

教科書に掲載されている物語（例：『スイミー』『お手紙』など）の横に、同じ作者の別の作品や関連書籍を集めたコーナーを常設。授業で興味を持った子どもが、そのまま知識を深められる導線を作っています。



情報センターとしての機能

【「大型本・リーディングトラッカー」導入】

大型本を入り口の独立した棚に配置しています。読書が苦手な子も大きな文字で読みやすい本をコーナーとして常設しています。複数人で読むことで、子ども同士のコミュニケーションも生まれています。リーディングトラッカーを図書館に常備することで行を追って読むことが苦手な子も読書をする手助けとなるようにしています。誰もが情報を取得しやすい環境を目指しています。

